

総務教育民生常任委員会

実施月日 令和4年12月15日

担当課 教育委員会事務局 教育総務課

令和3年度

教育委員会点検・評価報告書

下呂市教育委員会

令和4年12月

はじめに

下呂市では、下呂市第二次総合計画の教育分野において、「生きる力や豊かな文化を育みます」の基本理念のもと、明日の下呂市を担う人づくりに取り組んでいます。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

下呂市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、施策及び事務事業に関する点検・評価を実施し、報告書を作成しています。

令和4年12月

下呂市教育委員会

令和3年度「学校教育の方針と重点」についての点検・評価

1 方針及び設定指標に係る点検・評価

【方針】

- ◇「育てたい資質・能力」を決め出し、その力を育む教育を推進する。
- ◇学校の教育目標の具現に徹し、学校、家庭、地域が一体となった学校経営を推進する。

【指標】魅力ある学校づくりに向けて

- ①「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」を90%以上にする。
 - ②「授業の内容が分かりやすいと答える児童生徒の割合」を90%以上にする。
 - ③「授業で学ぶことが楽しいと答える児童生徒の割合」を80%以上にする。
- ※「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」等と回答した児童生徒に目を向けた指導や支援の充実

《指標結果》

① 学校が楽しいと感じる児童生徒の割合

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
目標	82.0	85.0	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績	93.7	94.2	94.9	94.8	95.2	94.9	95.5	94.7	93.8	92.5	92.8

② 授業の内容が「分かりやすい」と答える児童生徒の割合

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
目標	82.0	85.0	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績	94.1	94.0	95.0	93.7	95.3	95.1	95.7	95.3	94.0	94.6	94.4

③ 授業で学ぶことが楽しいと答える児童生徒の割合

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
目標	令和元年度からの新設設定指標								80.0	80.0	80.0
実績									91.4	92.4	92.3

〈総評〉

- 令和3年度で新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応も2年目となり、コミュニケーションがとりづらい生活を継続した。それでも3項目ともに大きな増減はない。コロナ禍でも一人一人の児童生徒に寄り添った学びを大切に、アイデアを練って授業や学校生活を楽しむ努力をすることによって、コロナ禍の日々を頑張って過ごしていると捉える。
- いずれの指標でも児童生徒の満足度は90%以上で目標値を上回っており、児童生徒は楽しく学校生活を送り、授業も充実しているといえる。さらに「残り数%」の児童の実態を詳細につかみ、組織として児童生徒の成長に向けて自己肯定感や有用感などを感じられる有益な指導を行うことが求められる。
- コロナ禍や自然災害のように未来は予測不能で多くの困難を乗り越えなければならない。当事者として課題に立ち向かい、ICTなどの情報機器を使いこなし、仲間と共にコミュニケーションをとって解決していくたくましさを身に付けるため、これからも学校・家庭・地域が「育てたい資質・能力」を共有し、一体となって取り組む教育活動を推進していかなければならない。

2 重点における評価

(1)「確かな学力」の定着を図る指導の充実

① 学力向上、教科指導充実内容と評価

【主な取組】

- ・全国学力・学習状況調査の結果分析をもとにした授業改善
- ・C R T調査やQ U検査をもとにした個々の児童生徒の実態把握
- ・児童生徒が主体的に取り組むための授業のしくみ方の研究
- ・個別対応や専門的な指導の実施：少人数指導加配教員、教科専門加配教員配置校（萩原小、下呂小、金山小、萩原南中、下呂中）
- ・複式学級における教科担任、中学校の免許外指導解消による授業の充実
- ・I C T（タブレット）を活用した授業

【成果・評価】

- ・コロナ禍のため至近距離で顔をつき合やすことはできなかったが、タブレットのアプリによって子ども同士の意見交換を可能にして、コロナ禍であっても授業を進めることができた。
- ・タブレットの導入により、個々の多様な興味関心やそれぞれの児童生徒の進み具合や能力に適した学びができたり、リモートでの交流が可能になったりして学び方の変化があった。
- ・全国学力・学習状況調査の結果は全国平均を上回っており、下呂市の児童生徒の学力水準は高い。また、「残り数%」の児童生徒への個別対応について、個を気にかけた指導によって授業が分かるように実践しているところである。
- ・C R T調査やアンケートなどをもとにして「育てたい資質・能力」を職員間の意見交換によって決定し、ポイントを絞った授業改善を行った。市教委による学校訪問で点検を行い、さらに改善する点などを見つけ出して、常に教員としての専門性を高めるための指導をした。
- ・「授業がわかりやすい」「授業で学ぶことが楽しい」と答える児童生徒の割合にほとんど変化はない。児童生徒が自分の課題として解決するための学び方を身につける指導によって、試行錯誤の末に解決できた喜びなどから「授業で学ぶことが楽しい」につながっており成果として表れていると考えられる。

② 特別支援教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・主幹教諭配置による各校への指導と助言及び特別支援コーディネーターの資質向上
- ・障がい児教育支援委員会充実による適正就学と適切な支援体制の構築
- ・市費学業支援員、県費非常勤講師配置による個別支援の充実（市費 29 名 県費 2 名）
- ・下呂市専門家チームによるこども園や小中学校への訪問派遣

【成果・評価】

□特別支援学級、通級指導教室設置状況

	知的	自閉情緒	難聴	肢体不自由	言語通級	LD/ADHD等通級
小学校 (9)	8 校	6 校	1 校		2 校	4 校
中学校 (6)	6 校	4 校				

- ・令和 3 年度も、市費学業支援員等の配置を計画的に行った。各校においては、関係機関による指導助言や見立てをもとに保護者との相談を丁寧に行うことにより長期的な見通しをもった支援などにつなげつつある。「下呂市専門家チーム派遣」の活用も多くなってきた。
- ・対象児童生徒は増加・多様化傾向にあり、それに対応する特別支援の専門的な指導ができる教員の育成が課題である。

(2)「豊かな心と健やかな体の育成」を図る指導の充実

① 道徳教育等の充実内容と評価

【主な取組】

- ・「特別の教科 道徳」の実施と実践による道徳の時間の充実
- ・中学校区における9年間を見通した意図的・計画的・発展的な道徳教育の推進
- ・コミュニティスクールによる体験的活動、学校行事や生徒会活動の工夫等による人間関係構築

【成果・評価】

- ・豊かな自然と地域の温かい人や文化の中で育つ下呂市の児童生徒はふるさとを誇りに思い大切にしたいと願っている。その思いから地域への貢献活動に積極的に参加をする生徒が多い。
- ・地域の方々が学校運営への関わりについて当事者意識をもち、児童生徒の教育を地域でもって担おうという動きがさらに進んできている。
- ・「自己肯定感」「困難を克服する強さ」など、たくましさにつながる部分に弱さも感じられ、さらなる充実が必要である。

② 生徒指導の充実内容と評価

【主な取組】

- ・管理職のリーダーシップのもと生徒指導体制を構築（組織対応、未然防止、早期発見と早期対応、連携）・改善する
- ・居場所と絆作りによるいじめ防止と早期発見・早期対応に関する研修の充実
- ・規範意識を高める指導の工夫と充実
- ・生徒指導研究協議会や主幹教諭による各校への指導と助言及び生徒指導主事の資質向上

【成果・評価】

☐ いじめの認知件数

H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
30	19	34	28	117	123	108	54	87

- ・昨年度と比べて認知件数は増加した。令和2年度は、臨時休校の影響があったこともあり、激しく増加したというところでもない。学校生活アンケートや教育相談週間などを設けることによって、児童生徒の心の声を拾いやすくして、今後も早期発見・早期対応を心掛けることが大切である。
- ・学校においていじめ対応の意識が高まり、小さなことでも事案ととらえ報告がつながっていく組織的な対応が確立されてきている。したがって、認知後の対応も素早く行い重大事案となるに至っていない。
- ・「下呂市いじめ防止等対策推進条例」等に基づいて組織された「下呂市いじめ問題専門委員会」と「下呂市いじめ問題対策連絡協議会」の定例会議が定着し、いじめ問題に対する組織体制が整っている。

☐ 不登校

校種	小学校						中学校					
年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	H28	H29	H30	R1	R2	R3
人数	3	3	5	4	3	7	18	18	15	17	20	28
1000人当たり	1.9	1.9	3.3	2.6	2.0	5.0	20.4	20.5	11.9	22.2	26.8	36.7

- ・小中学校ともに、1000人当たりの出現率が国や県を下回る傾向で推移している。
*R3：1000人当たりの出現率：国（小）13.0人（中）50.0人 県（小）15.2人（中）51.2人
- ・小中学校ともに出現率が増加している。昨年度と同様コロナ禍との関係性はみられず、家庭状況や人間関係など複雑な要因が絡んでいると考えられる。専門家や関係機関との連携を密にして、個々の状況に応じている。不登校児童生徒の社会性を育てるための家庭以外の居場所づくりについて、下呂市教育支援センター（フリースペースふらっと）の活用をさらに進めたい。

③ 健康及び安全教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・毎朝の健康観察及び保護者との連携強化 ・学級活動における食育や健康教育の充実
- ・食物アレルギー対応指針の啓発（保護者向け説明実施）
- ・「自分の命は自分で守る力」の育成（命を守る訓練の充実、市防災訓練への小中学生の参加）
- ・スクールサポーター事業の継続、強化 ・ボランティアによる見守り活動
- ・危機管理課や警察など関係者による児童生徒の通学路の点検

【成果・評価】

- ・コロナ対策の県の通知を受けて下呂市独自のコロナ対策指針を作成し、学校での感染症拡大防止対策を徹底することができた。
- ・体温チェックや健康カードによる感染症を持ち込まないこと、手指消毒やマスク着用の徹底などによる感染を広めないことなどの対策を行ってきた。
- ・学校職員の補助として、スクールサポートスタッフ・PTA・地域ボランティアなど、多くの大人が子どもたちの健康を守るために関わった。
- ・通学時の安心安全の確保について、地域の方々が活躍している。学校運営協議会や地域ボランティアの方々の人数確保による継続が今後の課題である。
- ・通学路点検により、危険個所の把握と改善への方策などの対応をしている。

(3)その他の教育活動、研修事業

① 地域に信頼され地域と共にある学校づくり

【主な取組】

- ・児童生徒や保護者、学校評議員、教職員によるアンケート調査を実施し、定期的評価・検証による教育活動を展開
- ・各校ホームページ充実（教育活動や行事の紹介（写真）や学校だより、学校評価）
- ・地域協働による子育て体制整備

【成果・課題】

- ・令和2年度より全小中学校で学校運営協議会が設置されており、主体的に運営をしつつある。
- ・中学校では、自分事として地域に何ができるかという意識が高まり、ボランティアなど積極的に参加して地域に貢献する生徒が増えてきた。
- ・地域や家庭と一体となって子育てを充実、発展させるために、「こんな子に育てたい」「こんな地域にしたい」等願う姿を、地域や保護者と熟議する必要がある。

② 教職員の資質向上

【主な取組】

- ・教育研究所による研修事業充実
- ・市初任者研修、2年目研修実施
- ・市校長研修、教頭研修実施
- ・嘱託研究員会
- ・教科専門指導員、ICT指導員（新規）

【成果・評価】

- ・タブレットを活用した授業での職員の指導力向上のためにICT指導員による実践研修（24回）や研修動画配信（14本）を行った。タブレットを活用した授業について、苦手意識がある教員についても職員間で教えあって活用し始めた。
- ・教科専門指導員が若手教員の授業を参観し懇談（延べ89回）することによって、若手教員の悩みに答えたりよりよい指導のための支援を行ったりすることができた。
- ・教育実践講座 夏季講座： 11講座開設（延べ329人）
- ・教育実践論文応募 23点（昨年度より3点増）一般7 新人16
- ・前年度はコロナ禍により夏季実践講座は中止したが、令和3年度は参集して行う研修が開催でき、オンラインではできないグループセッションや実技を交えた実践などができた。

(4) 教育環境の整備と充実

- ① 育英資金活用事業や要保護・準要保護就学援助事業により、経済的・身体的な理由により就学、進学が困難な児童生徒に対する就学支援の充実を図った。

【主な取組】

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ・育英資金活用事業 | 高校生 17 名 |
| ・要保護・準要保護就学援助事業 | 小学生 75 名、中学生 47 名 |

② 改築、修繕関係

児童・生徒の教育施設環境向上のため、以下の事業を実施した。

1. 下呂市学校施設長寿命化計画に基づくもの

- ・萩原小学校長寿命化改良事業（令和 2～4 年度 2/3 年目）
- ・小中学校耐力度調査（宮田小・小坂小・萩原北中・竹原中）

2. 学校統合によるもの

金山地域 4 小学校（金山小・下原小・菅田小・東第一小）の統合に伴い、校舎と屋内運動場の大規模改修を実施

- ・金山小学校統合改修事業（令和 2 年度からの繰越事業）

3. 老朽化し更新時期を迎えた設備等の改修によるもの

- ・屋内運動場照明 L E D 化工事（上原小）
- ・校舎屋上防水改修工事（中原小）
- ・屋内運動場バスケットゴール装置改修工事（小坂小）
- ・電話設備改修工事（馬瀬小・小坂中）
- ・萩原北中学校放送設備取替工事（萩原北中）

令和3年度「文化財保護事業の方針と重点」についての点検・評価

■文化財保護事業の方針と重点について

1. 方針と成果指標及び評価

1-1. 下呂市第二次総合計画の内容

[基本目標] 2. はぐくみ

[基本施策] 2-4. 歴史・文化財「みんなで守ろう文化財 ふるさとの文化を受け継ぎ守ります」

[目指すまちの姿]

- ①文化財を活用することで、地域文化の向上発展と地域振興を図っているまち
- ②市内全域にある埋蔵文化財の位置情報の正確な記録があり、迅速な情報提供、適切な保存・保護がなされているまち
- ③博物館収蔵品が適切に保存管理され、テーマに沿って随時展示公開することで、下呂市の歴史や文化が市民に深く理解されているまち

1-2. 第二次総合計画の成果指標について

【成果指標①】 埋蔵文化財調査の実施及び調査報告書の成果公開状況

年度	H30	R 1	R2	R3	R4
目標	下呂市全域 遺跡地図編 集製本	発掘調査報告書 を利用した公開 事業案の計画	史跡復元イラ ストの作成 (萩原諏訪城・ 桜洞城)	史跡復元イラ ストの作成 (鳳慈尾山威徳 寺)	成果品の有効 活用
実績	前回指標の 目標達成	城郭等復元イラ ストの事例調査 及び予算化	地域住民との 共同校正作業 及び展示	地域住民との 共同校正作業	—

内部評価：これまでの成果指標である「下呂市遺跡詳細分布調査報告書」を平成30年10月に発刊したことから、過去に刊行した発掘調査報告書をもとに城郭等の復元イラストを作成し、史跡の全体像を具現化した状態で広く紹介することを新たな成果指標とした。

令和2年度の萩原町「萩原諏訪城」と「桜洞城」に続いて、令和3年度は御厩野の「鳳慈尾山大威徳寺跡」に着手した。地域有識者の意見をうかがいながら校正を繰り返し、地域にある文化財の保護意識を高めることができた。

完成したイラスト完成図（成果品）は、原図を下呂ふるさと記念館に展示、また複製品を地域公民館に贈呈する。今後は、成果品データを活用し地域振興や観光及び学習の材料を提供することで、“守り”ばかりでない“攻め”の事業を新たに計画する。⇒「目指すまちの姿①」

【成果指標②】 下呂市文化財保存活用地域計画の策定

年度	R2	R3	R4	R5	R6
目標	・県の大綱案調査研究 ・大綱策定意見交換会 で情報収集（県主催）	近隣市町村と情報交換	近隣市町村と情報交換	統一見解の 調整	地域計画の 策定
実績	完成した県の大綱案 の研究	文化財保存活用地域計 画策定研修会（2/17. 18 ウェブ会議）に参加、 全国の自治体事例の情 報交換	文化財保存活用地域計 画策定研修会（10/24～ 27 小浜市）に学芸員が 参加、他自治体事例の 情報交換	—	—

内部評価：大筋となる県の文化財保存活用大綱が示されたことから、県内の市町村の状況や当該計画の策定方法を研究し「下呂市文化財保存活用地域計画」の早期策定を目指す。現状のマンパワー不足を解消するべく、支援員もしくは委託業務等の進め方を吟味する。

⇒「目指すまちの姿②」

【成果指標③】 下呂ふるさと歴史記念館（博物館法に定める博物館相当施設）入館者数

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標	14, 500	14, 500	14, 500	14, 500	15, 000	12, 000	12, 000
実績	15, 306	17, 449	17, 574	17, 822	10, 455	10, 973	—

内部評価：新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた入館者数は、規制緩和を受けてから徐々に回復の兆しにある。夏休み期間には、館内の展示品を用いたクイズラリー等を実施し、新たな企画を計画・実践することができた。

このようなイベントも毎年継続することで、年間来館者数目標の達成を目指すと共に、新たな企画展を実施するなど、博物館機能の質的向上を目指す必要がある。⇒「目指すまちの姿③」。

2. 主要な個別事業の方針と事業結果について

2-1. 文化財保存修理事業助成費 県・市指定文化財の保存修理補助金 ⇒「まちの姿①」

【市指定】御厩野：阿弥陀寺十王堂屋根修繕
宮田：藤ヶ森観音堂屋根修繕
中呂：禅昌寺景劉庵（茶室）屋根修繕

台風被害により破損、または経年劣化により雨漏り等の発生が懸念される文化財の屋根材について、修繕及び葺替工事を行い文化財保護に努めた。

2-2. 指定文化財保護事業 市内指定文化財の巡視と現地調査 ⇒「まちの姿①」

【文化財審議会】新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け実施なし
【市指定文化財の現状巡視】保護巡視員 15 人による年 2 回の巡視
【文化庁調査官現地指導】久津八幡宮本殿保存修理事業の現地調査

文化財巡視員から異常報告のあった文化財について、早期の対応により文化財保護を図っている。

令和 4 年度に計画している国重要文化財の久津八幡宮本殿保存修理事業について、文化庁調査官による現地指導を依頼し工事施工内容等の了承を得た。

2-3. 加藤素毛記念館／金山郷土館／小坂郷土館／馬瀬民俗歴史資料館／禅昌寺歴史資料館

今日まで地域に大切に伝わった収蔵資料の展示公開⇒「まちの姿③」

【加藤素毛】・【金山郷土館】地域の郷土史に詳しい人物による希望日開館と対応

【禅昌寺歴史資料館】・【小坂郷土館】・【馬瀬歴史民俗資料館】地域の民俗資料、埋蔵文化財出土品及び古文書等の収集保管施設

加藤素毛記念館は、遣米使節団の一員として活躍した「県重文加藤素毛の遺品」を展示公開する施設である。この記念館は金山郷土館とともに地元小学生の社会科見学先として利用されている。

禅昌寺歴史資料館は市内の古文書・埋蔵文化財が収蔵保管されており、県内外の研究者による調査研究、県立博物館の展示借用の利用に供している。

小坂郷土館・馬瀬歴史民俗資料館を地域の民俗資料の保管施設と位置付け、学校や調査研究目的の利用に限り事前申請の上、開放している。

2-4. 博物館収蔵品調査保存整理事業 古文書や出土遺物を整理保存し新たな価値を発見

⇒「まちの姿③」

【市収蔵資料の調査整理と目録刊行による公開】下呂市埋蔵文化財調査報告書の刊行

【収蔵品を活用した講座・授業の実施】「総合的な学習」授業支援

過去に萩原町教育委員会が行った発掘調査の遺物の再整理を令和元年度に完了し、その成果を「桜洞神田遺跡 遺物実測図・写真図版」として刊行した。

萩原小学校の「総合的な学習」では国指定建造物久津八幡宮の見学や収蔵古文書を利用した授業を行った。そうした機会を通じ、地域の児童・生徒に「今日まで大切にされてきたもの」を伝えることができた。令和2年度に該当はなかったが定期的に刊行する収蔵品目録は、地域に伝わった大切な史料の内容を明らかにし、生涯学習講座・学校授業の基礎を成している。

令和3年度「生涯学習推進の方針と重点」についての点検・評価

分野別方針と評価

下記分野別重点事項について別表のとおり事業結果等をまとめました。別表「分野別教育」の欄に次の①～④の重点事項が対応しております。

①家庭教育

子供の自立と積極的で温かい心の育成など、未来を担う子供たちの人格形成の基礎を培うことを目指します。その実現に向けて、情報提供の工夫と支援プログラムの充実を図るような事業をより一層推進し、関係機関相互の連携を推進します。

(めざすこと)

- ・妊娠期からの子育て支援
- ・乳児期から青少年期の段階に見合った子供の育成支援
- ・こども園や学校、地域の連携による、家庭の教育力の向上

②青少年教育

生涯にわたる学習・生活の基礎等となる知識や技能、主体的に学ぶ意志や態度、さらには公共心を養う事や社会変化に適切に対応できる能力、たくましく生きるための健康や体力など、「誇りをもって共に生きる力」を身に付けることを目指します。

また、近年、子供を取り巻く環境が大きく変化しており、子供たちの成長を支えるには、地域と学校が協働し社会総がかりで教育を行うことが重要であります。そのため、その仕組みである「地域学校協働活動」の事業実施（基盤づくり）と、教育機関や地域社会との連携をより一層推進していきます。

③地域教育

社会構造の変化から、全国的な地域コミュニティの衰退が課題となっています。近年住民側、市民団体側からの再生の動きが注目されています。その背景には、次のようなことがあります。

- ・大地震などに備え、コミュニティの結束力を再構築する動きが広がっていること。
- ・地域コミュニティ自体に活動の機運が強まっていること。

日常生活における最小コミュニティは家族ですが、地域社会とのふれ合いは豊かな家庭生活を築く大きな力をもっています。人々との交流の中で生まれる喜びの感情や、災害などに遭遇したときの相互扶助の役割は、地域コミュニティに大いに期待されるべきものです。

地域コミュニティの重要性が改めて唱えられてきている機運を高めるため、地域社会との連携を推進していきます。

④情報教育

インターネットがグローバルな情報通信基盤となり、パソコンやスマートフォンが広く個人にも普及している中、誰もが情報の受け手だけでなく手軽に情報発信が可能となり、日常生活における情報の扱いも大きく変化しています。

市の情報教育は、情報の理解、情報活用、情報社会への参画を推進していきます。

◇ 市民の情報理解

情報を適切に扱い、情報内容の評価・改善するための方法、理解力の育成。

◇ 市民の情報活用

課題や目的に応じた必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力の育成。

◇ 市民の情報社会への参画

社会生活の中で情報が果たしている役割や影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について理解し、情報社会へ参画する。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（ 事 業 ）		(分野別教育)	実績	評価
社会教育事業 10040105	◇下呂市社会教育委員の会を開催し、市民活動推進課所管事務事業の評価を行い、健全な事業運営に努める。 ◇社会教育関係団体（県・飛騨社教等）との連携	③地域教育 ④情報教育	社会教育委員の会 10名 3回開催 ・生涯学習の基本方針の策定に関わる意見・提言 ・下呂市社会教育関係団体登録団体数 105団体 ・まちづくり人材バンクの登録件数 64件	・「下呂市生涯学習推進の方針と重点」をもとに、各施策を進めた。
青少年教育事業 10040201	◇少年の主張の開催 ◇青少年顕彰(わかあゆ賞)の実施 ◇わくわくインターナショナルフェアの開催 ◇青少年育成市民会議の開催 ◇青少年文化等振興激励金交付 ◇立入検査(有害図書等)の実施 ◇人権学習資料の配布	②青少年教育 ③地域教育 ④情報教育	下呂市青少年育成推進員 13名 ①青少年育成市民会議 【R3. 6. 12開催】 ・少年の主張下呂市大会 新型コロナウイルス感染症対策のため、R2年度同様に規模を縮小して開催。少年の主張下呂市大会は市内各中学校から6名の代表による審査会となった。県大会が下呂市で開催された関係で、市代表を1名選出(下呂中代表)、参加者1名を飛騨地区選考会へ推薦(小坂中代表)。 ・青少年育成顕彰「わかあゆ賞」表彰式は中止。郵送にて授与した。青少年の文化、スポーツ、奉仕活動等の優れた活動 顕彰 36名、2団体 新型コロナウイルス感染症予防のため、授与式は行わず、郵送。 ②わくわくインターナショナルフェア 【R3. 11. 27開催】 子供たちへ気軽に英語に触れあえる機会を提供するためのイベントを開催。参加者50名(コロナ禍により人数制限)	①青少年育成市民会議 ・少年の主張大会は、コロナ対策をした上で実施した。参加した生徒6名は自らの主張を堂々と発表し評価を得たことで、生徒の自信や意欲等につながった。また、無観客開催であったため、CCN放映を行い、中学生や市民の関心向上を図った。 ②わくわくインターナショナルフェア ・主に小学校低学年の子供たちに英語に対する興味や親近感を持ってもらうことが出来た。 【全体】 ・コロナ禍でもできることを探り、青少年の健全育成を進めた。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（ 事 業 ）		(分野別教育)	実績	評価
青少年健全育 成事業 10040205	◇子ども会活動の推進 ◇親子わくわく科学体験教室の開催 ◇ふるさとジュニアサポーター活動の推進	①家庭教育 ②青少年教育 ③地域教育	①親子わくわく科学体験教室 市内小中学校の理科担当教諭等で構成された「下呂サイエンスの会」に委託し、学校や家庭では体験できない科学を通じて、子どもたちが驚きや感動の体験を味わい、親子のふれあいを深める機会を作ることを目的として計画したが、コロナウイルス感染症拡大防止のため、止む無く中止とし、撮影による動画提供に切り替えた。 ②青少年各種団体補助金 ・子ども会等活動育成補助金 実績 1,147千円 ③ふるさとジュニアサポーター活動 花植え、学童保育、児童館、イベント等へのボランティア参加	①親子わくわく科学体験教室 ・You Tubeにより動画配信し、科学の楽しさを伝え広めると共に、主体的な家庭学習を促す契機となった。 ②青少年各種団体補助金 ・子ども会活動では、新型コロナウイルス感染症予防で活動ができない中でも、各子ども会が安全に配慮した活動を検討実施し、貴重な体験となった。 ③ふるさとジュニアサポーター活動 ・コロナ禍により、子供たちが地域に出て活動することが難しくなり、体験機会や地域の人とのつながりが減ったが、学校と地域との連携の中で、豊かな体験ができるよう、つながり作りを行いたい。
地域学校協働活動推進事業 10040207	◇地域学校協働活動 ◇放課後子ども教室（上原・中原小学校区）	①家庭教育 ②青少年教育 ③地域教育	①地域学校協働活動 ・市内の全12校区で地域学校協働活動を実施した。 （内容）職場体験、職業講話、農林業体験、福祉ボランティア、地域の宝さがし、地域伝統行事への参加、地域住民との交流等 ②放課後子ども教室（地域学校協働活動の一環として実施） ・上原っ子クラブ(上原小学校区) 令和元年10月より開始 R3開催回数200回 参加児童数(平均)10人 全スタッフ数19人 ・中原っ子クラブ(中原小学校区) 令和元年11月より開始 R3開催回数180回 参加児童数(平均)12人 全スタッフ数13人	①地域学校協働活動 ・地域学校協働活動推進員の委嘱 14名 ・各学校において、地域学校協働活動が積極的に行えるよう、推進員を委嘱して、地域人材の発掘、働きかけ活動の支援を行った。 ②放課後子ども教室 ・運営スタッフは、地域住民にて人数が確保でき、安定した教室運営を行うことができた。 【全体】 ・地域学校協働活動については、高齢者・保護者・主婦・学生等の参画もあり、それぞれが地域の子供たちの成長や学びを支えるという意識をもって参画しているだけでなく、自分自身の喜びや生きがいとを感じる方も多い。 ・子供たちの郷土愛の醸成のみならず、住民の地域づくりにもつながっている。今後は自治会や各種団体の活動との連携を一層深めていきたい。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（事業）		（分野別教育）	実績	評価
成人式開催 10040209	◇成人式の開催（旧町村単位で行う）令和4年1月8日（土）、9日（日）	②青少年教育 ③地域教育	成人式開催（5地区） 対象者347人中 300人参加 （内WEB参加は0人） 令和4年1月8日（土） 小坂 25人 下呂 113人 令和4年1月9日（日） 萩原 106人 馬瀬 7人 金山 49人	・各地区にて成人を迎える子供たちを集めて実行委員会をひらき、成人式の内容を決めた。 ・成人を迎える子供たち自身で成人式を作るため、地元の良さを再確認できた。
家庭教育支援 総合整備事業 10040305	◇親学び講座（父親参加の体験型講座を含む） ◇命のふれあい講座 ◇企業内家庭教育研修会 ◇家庭教育支援事業（下呂市家庭教育支援チーム） ◇子育て支援の連携会議による家庭教育相談体制の強化 ◇社会教育主事2名の配置による推進体制強化の継続	①家庭教育 ②青少年教育 ③地域教育 ④情報教育	①親学び講座 親学び講座 3回開催 132人参加（内父親12人） ・7/24 親子おりがみアート教室 ・10/13 子育て講演会 ・12/5 親子環境講座 ②下呂市家庭教育支援事業 UPカフェ（3歳未満児の親対象） 赤ちゃんカフェ（0歳児の親対象） 支援チームスタッフ 9人、 開催15回、延べ参加者93人 萩原地域6回、下呂地域5回、 金山地域4回 ③いのちのふれあい講座 （命の講話、託児体験、性の多様性等） 市内6中学校 51回 10小学校 14回 延べ参加者1,505人	① 親学び講座 ・親子で様々な体験をすることを通して、親子のコミュニケーションづくりを図り、子育てのヒントとなる情報や手立てを学ぶ機会となった。 ②下呂市家庭教育支援事業 ・UPカフェ・赤ちゃんカフェでは、コロナ対策で飲食は中止したが、保護者同士や保護者と支援チームスタッフとの語り合いの場をつくり、子育て中の母親の悩みや不安の解消、ストレス緩和を図った。コロナ禍だからこそ、交流の場を求めている母親のニーズに応えることができた。 ③いのちのふれあい講座 ・参加した児童生徒が、命の大切さ等を学び、人権への意識、自己肯定感の醸成につながった。
図書館運営 10040501	◇3図書館（はぎわら、下呂、金山）及び小坂図書室と馬瀬移動図書館の運営 ◇新刊図書購入費、図書システム運用管理 ◇資料の充実、雑誌・月刊誌の充実 ◇広報活動	①家庭教育 ②青少年教育 ④情報教育	・蔵書数 R2 120,396冊 R3 121,055冊（0.5%増） ・貸出数 R2 66,962冊 R3 94,270冊（40.8%増） ・年間249日開館	・減少していた貸出数については、コロナ禍前の水準に回復した。 ・今後も図書サービスの向上に努め、利用者の増加を図る。
文化伝統芸能 推進事業 10040758	◇全国芝居小屋会議負担金及び総会参加旅費 ◇下呂市文化協会への活動補助金	③地域教育	・全国芝居小屋会議はオンライン開催 ・下呂市文化祭及び各地区文化祭は中止	・コロナ禍のため、市文化祭及び地区文化祭は中止となった。 ・次年度の開催に向けて、文化協会と協議を行った。